

都市計画（案）の縦覧結果について（北坂戸拠点地区関係）

- 1 縦覧期間 令和6年5月10日（金）から
令和6年5月24日（金）まで
- 2 縦覧者数 3人（用途地域：1人、防火・準防火：1人、公園：3人、
土地区画整理：1人、地区計画：1人）
- 3 意見書の提出 用途地域： 2通 477名（反対： 2通 477名）
※1通 476名（連名）を含む
公 園： 5通 501名（反対： 5通 501名）
※1通 497名（連名）を含む

4 意見の要旨及び市の見解

《用途地域》

種別	件数	主な意見の要旨	市の見解
1. 自然環境	478件	木々を切る事によって、将来的に温暖化の要因を作る。	溝端公園は、今後、多世代交流拠点施設等の用地として活用する計画ですが、事業の実施に当たっては、坂戸市ゼロカーボンシティ宣言を踏まえ、既存樹木を極力活用するなど温室効果ガスの削減に努めて参ります。 また、旧北坂戸小学校用地を活用し、溝端公園に代わる新たな都市公園を整備する計画であり、新たな都市公園に植樹を行うこと等により、北坂戸地区全体として緑地の保全を図って参ります。
		木々が切られ、施設やアスファルト駐車場に変えることに反対である。	
		市のゼロカーボンシティ宣言に反する。	
		溝端公園の廃止は自然破壊と地球温暖化につながる。	
2. スポーツ利用	478件	少年野球、サッカー、ソフトボール、グランドゴルフ、ボッチャ等のスポーツができる大切なグラウンドをなくしてしまう計画に愕然とした。	溝端公園に代わる新たな都市公園は、多世代が憩える地域に開かれた公園とする計画であり、球技等の専用施設は整備しない方針としています。 スポーツ団体の活動場所につきましては、原則として市民総合運動公園等を御利用いただくほか、学校施設の開放や他の運動施設を御利用いただくことで確保できるものと考えておりますが、新たな都市公園の計画策定の際に御意見を踏まえて検討して参ります。
		スポーツ団体の活動場所を残すべき。	

3. 防災機能	477 件	地震・水害時の一時避難場所でもある。	<p>溝端公園に整備を予定している多世代交流拠点には、災害発生時の地域防災拠点となる地域交流センターが移転するほか、併設する民間施設の事業者が災害時の支援等を要請して参りたいと考えています。</p> <p>また、旧北坂戸小学校用地に整備する新たな都市公園には、溝端公園が有する緊急避難場所の機能を移すと共に、一部旧校舎を活用して防災施設を設置する計画であり、北坂戸地区の地域防災機能の向上を図って参ります。</p>
4. コミュニティ	478 件	乳幼児からお年寄りまで、全世代が遊び、くつろげる場所である。	<p>溝端公園に整備を予定している多世代交流拠点には、地域交流センターを始めとする公共施設、訪れた人々が自由に立ち寄ることができ、イベントも開催できる賑わい広場などを設け、引き続き子どもからお年寄りまで多世代が交流できる場所として維持して参ります。</p> <p>また、旧北坂戸小学校用地に整備する新たな都市公園には、年齢、性別、障害の有無等に関係なく、すべての人が楽しめる遊具や憩いの空間を整備して参ります。</p>
5. その他	1 件	新しい商業施設を作っても集客は見込めないと思う。	<p>溝端公園への多世代交流拠点の整備事業について民間事業者を確認したところ、複数の事業者が積極的な参画意向を有しており、商業施設への集客が見込まれるものと考えています。</p> <p>また、多世代交流拠点に公共施設と民間施設を併設することにより、他の施設にない魅力や新たな賑わいを創出できるものと考えます。</p>

《公園》

種別	件数	主な意見の要旨	意見に対する市の見解
1. 自然環境	521件	溝端公園は50年以上かかって大きくなった樹木の緑豊かな公園であり、その樹木を切る事は坂戸市の「ゼロカーボンシティ宣言」の方針にも反するため、公園を無くさないでほしい。	<p>溝端公園は、今後、多世代交流拠点施設等の用地として活用する計画ですが、事業の実施に当たっては、坂戸市ゼロカーボンシティ宣言を踏まえ、既存樹木を極力活用するなど温室効果ガスの削減に努めて参ります。</p> <p>また、旧北坂戸小学校用地を活用し、溝端公園に代わる新たな都市公園を整備する計画であり、新たな都市公園に植樹を行うこと等により、北坂戸地区全体として緑地の維持を図って参ります。</p>
		北坂戸駅西口から近く緑豊かな公園はくつろげる場所で利用しやすいのなくなるのは困ります。	
		人間と自然の共存共栄の時代に逆行するような事業は、街中の自然を壊してまでする必要はありません。	
		樹林となりつつある溝端公園の存続及び樹木の温存は極めて重要である。	
2. スポーツ利用	517件	サッカー、ソフトボール、グランドゴルフ等のスポーツが出来なくなるのは困る。	<p>溝端公園に代わる新たな都市公園は、多世代が憩える地域に開かれた公園とする計画であり、球技等の専用施設は整備しない方針としています。</p> <p>スポーツ団体の活動場所につきましては、原則として市民総合運動公園等を御利用いただくほか、学校施設の開放や他の運動施設を御利用いただくことで確保できるものと考えておりますが、新たな都市公園の計画策定の際に議論を深めて参ります。</p>
		運動やスポーツ大会が出来る公園を残してほしい。	
		ゲートボールをやっている高齢者は、遠くまで行けない方々もいるので、グラウンドが無くなると困る。	
		グラウンド、テニスコートを廃止するのが多世代間の交流のためというのは市民からすると全く理解できない。	
3. 防災機能	506件	溝端公園は東武東上線北坂戸駅の西側約200m、高齢者が多数暮らしているUR北坂戸団地のほぼ中心に位置している立地から、避難場所として適しており重要な場所のためなくなると困る。	<p>溝端公園に整備を予定している多世代交流拠点には、災害発生時の地域防災拠点となる地域交流センターが移転するほか、併設する民間施設の事業者には災害時の支援等を要請して参りたいと考えています。</p> <p>また、旧北坂戸小学校用地に整備する新たな都市公園には、溝端公園が有する緊急避難場所の機能を移すと共に、一部旧校舎を活用して防災施設を設置する計画であり、北坂戸地区の地域防災機能の向上を図って参ります。</p>
		溝端公園の緊急避難場所がなくなると北坂戸団地の方々が緊急時に集える場所がなくなってしまう。	
		災害時に防災活動拠点としての役割を担っている重要な施設です。	
		緊急的な避難場所として溝端公園が果たす役割は大きく、他の代替は防災対応の観点から後退を意味する。	

4. コミュニティ	509 件	家族や孫と遊べる公園を無くさないでほしい。	<p>溝端公園に整備を予定している多世代交流拠点には、地域交流センターを始めとする公共施設、訪れた人々が自由に立ち寄ることができ、イベントも開催できる賑わい広場などを設け、引き続き子どもからお年寄りまで多世代が交流できる場所として維持して参ります。</p> <p>また、旧北坂戸小学校用地に整備する新たな都市公園には、年齢、性別、障害の有無等に関係なく、すべての人が楽しめる遊具や憩いの空間を整備して参ります。</p>
		溝端公園で培われた人間関係が失われる。	
		地元のイベントが開催される場所がなくなってしまう。	
		孫が遊べる遊具があり、正月などタコあげをして楽しんでいます。無くなっては困ります。	
5. 周知不足	3 件	本計画についての十分な周知、説明が行われていないと考える。	<p>本計画につきましては、令和4年11月に「坂戸市北坂戸地区まち・くらし再生事業基本計画（案）」を公表し、計画に対する市民コメントや北坂戸地区を対象とした地区説明会を開催しており、広報さかどや市ホームページへの掲載、北坂戸地区内への回覧など、様々な方法を用いて周知に努めて参りました。</p> <p>また、令和5年7月には、寄せられた市民コメント等の意見を踏まえ、「坂戸市北坂戸地区まち・くらし再生事業基本計画」を策定した上で、同時に市民コメントに対する市の考え方を公表するなど、広報さかどや市ホームページを活用しながら周知して参りました。</p>
		広報やホームページ等での周知方法について、市の姿勢や配慮不足を感じる。	
		溝端公園を廃止にすることは、本当に近隣住民の気持ちを汲んだものか疑問を感じる。	
6. その他	9 件	旧北坂戸小学校用地の再利用について、用途地域の変更も含め再検討いただきたい。	<p>旧北坂戸小学校用地周辺の用途地域は、そのほとんどが第一種低層住居専用地域であり、建築物の高さや用途を制限するなど、低層住宅地として良好な住環境を保全しています。</p> <p>市では、引き続き住宅地の住環境を保全していく必要があると考えており、旧北坂戸小学校用地の活用に当たっては、用途地域の変更は行わず、現行の規制の範囲内で土地利用を図って参ります。</p>

	<p>URや東武鉄道㈱との連携実現を先に実施すべきである。</p>	<p>御意見のとおり、地域の活性化に向けては、UR都市機構等の関係者と一体となって取り組むこと、及び、駅前の活性化を図ることが重要であると認識しております。</p>
	<p>地域を活性化するのであれば、東武ストアの跡地を活用するなどほかに方法があるのではないのでしょうか。まずは駅前を活性化しなければ溝端公園に施設を作っても人が集まるとは思えません。</p>	<p>また、北坂戸地区の人口を増やすためには、拠点整備だけではなく、UR団地を始めとする既存住宅ストックの活用・再生などに取り組む必要があると認識しております。</p>
	<p>現在の計画では、北坂戸地区の人口を増やすことにつながるとは考えにくい。</p>	<p>このようなことから、UR都市機構とは、まちづくりに関する連携協定に基づき北坂戸地区のまちづくりについて協議を重ねると共に、東武鉄道㈱に対しても東武ストア跡地の早期活用を要望して参りましたが、いずれも時間を要する見込みとなりました。</p> <p>このため、北坂戸地区の賑わい再生について市が先行して取り組む必要があると判断し、公共用地を活用して多世代交流拠点を整備することといたしました。</p> <p>今後においても、UR都市機構等と協議を進め、連携してまちづくりに取り組んで参ります。</p>